

段落	文	頁	行	原文	神山訳	寺沢訳
		179	15 16	3. Veränderung des Quantums.	三. 数量の変化	三 定量の変化
495	1		17 18 19 20 21 22	Der Unterschied des extensiven und intensiven Quantums ist der Bestimmtheit des Quantums an ihm selbst gleichgültig; er ist nur ein Unterschied seines Daseyns, oder es hat die Bestimmungen, welche das Extensive und Intensive ausmachen, als seine Momente in ihm selbst.	外延的な数量と内包的な数量との区別は、その区別自身で数量の規定態に無関心である。この区別は、たんに、数量の現存在の区別にすぎない。いいかえれば、この現存在は、もろもろの規定をもっており、こうしたもろもろの規定は、数量自身のうちにある数量のもろもろのモメントとして、外延的なものと内包的なものをなしている。	外延的定量と内包的定量との区別は定量の規定態そのものにとっては無関心的である。この区別は定量の定在の区別である、換言すれば、定量は外延的なものと内包的なものをつくりなしている諸規定をその契機としてそれ自身の内にもっている。
	2		22 23 24	Aber wenn es dagegen als gegen einen Unterschied des Daseyns gleichgültig ist, so sind dafür seine Momente in einen innern Gegensatz getreten.	しかし、これに対して、数量は、その現存在の一つの区別に対して無関心なものとしてあるなら、そのかわり、数量のもろもろのモメントは、内包的な対立に踏み込むことになる。	だが定量が定在の区別としてのこの区別に対して無関心的であるのに反して、定量の両契機はその代りに内包的な対立へと入りこんでいる。
	3		24 25 26	Das extensive Quantum ist als sich auf sich beziehendes Eins in das intensive Quantum übergegangen.	外延的な数量は、みずからをみずからに関係づける〈一つ〉としては、内包的な数量に移行してしまった。	外延的定量は自己へと関係する一として内包的定量へと移行している。
	4		26 27 28 29 30 31	Dieses aber, welches somit allein zu betrachten ist, ist die Größbestimmtheit, die einfach in sich, aber eben in dieser sich auf sich beziehenden Bestimmtheit sich äusserlich ist, nicht in sich, sondern in einem andern Mehrern besteht.	しかし、そのことによってもっぱら考察すべきこの内包的な数量は、〈大きさの規定態〉である。この〈大きさの規定態〉は、みずからの内で単純なのだが、まさにみずからをみずからに関係づけるこうした規定態ではみずからに外面的であって、〈大きさの規定態〉の実質は、みずからのうちにあるのではなく、他の複数にあるのである。	それゆえに内包的定量が単独に考察されるべきであるが、だがそれは、自己内で単一ではあるがしかしまさにこの自己へと関係する規定態において自己にとって外的であり、自己内ではなく他の多重的なものの中に成りたっている、そういった大きさの規定態である。
496	1	180	1 2	Die intensive Größe ist also fürsichseyendes Quantum und darin wesentlich auf ein Anderes bezogen.	したがって、内包的な〈大きさ〉は、それだけで独立して存在する数量であり、この数量のうちで本質的に、〈他のもの〉に関係づけられている。	内包的定量はしたがって向自存在的定量であり、しかも〔向自存在的であるという〕この点で本質的に他者へと関係づけられている。
	2		2 3 4	Diß Andre ist ein Anderes <i>dieser</i> Größe; ein anderes Quantum.	こうした〈他のもの〉は、【この】〈大きさ〉にとっての〈他のもの〉であり、他の数量である。	この他者とはこの〔一定の〕大きさの他者・すなわち他の定量である。
	3		4 5	Sie ist also nur, als ihre Bestimmung in einer andern Größe habend.	したがって、〈この〉〈大きさ〉は、みずからの規定を他の〈大きさ〉のうちを持つものとしてのみある。	内包的な大きさはしたがってその規定を他の大きさのうちにもつものとしてのみ存在する。
	4		5 6	Aber sie hat ihre Bestimmung, ihr Ansichseyn, in einer andern Größe, heißt, sie	しかし、〈この〉〈大きさ〉は、他の〈大きさ〉のうちのみずからの規定、すなわちみずからの〈そ	だが、それがその規定・その即自存在を他の大きさの内にもつということは、それが

		7	ist nicht sie selbst, sondern ein anderes Quantum.	れ自体の存在〉を持つ。すなわち、〈この〉〈大きさ〉は、〈この〉〈大きさ〉自身ではなく、むしろ他の数量なのである。	自分自身ではなくて他の定量であるということの意味する。
	5	7 8	Oder sie geht wesentlich in eine andere Größe über.	いいかえれば、〈この〉〈大きさ〉は、本質的に、他の〈大きさ〉に移行する。	喚言すれば、内包的な大きさは本質的に他の大きさへと移行するのである。
497	1	9 10	Die intensive Größe ist aber überhaupt das reale Quantum.	しかし、内包的な〈大きさ〉は、一般に、実在的な数量である。	だが内包的な大きさは一般に実在的定量である。
	2	10 11 12 13	Das Quantum ist die als aufgehoben gesetzte Bestimmtheit, die gleichgültige Grenze; das heißt also, es ist die Bestimmtheit, welche eben so sehr die Negation ihrer selbst ist.	数量は、廃棄されたものと設定された規定態であり、無関心な限界である。したがって、これをいうならば、数量は、規定態ではあるが、同じ程度に規定態自身の否定である規定態なのである。	定量は揚棄されたものとして定立された規定態・無関心的な限界である。したがって定量はまた同じく規定態そのものの否定であるところの規定態ある、ということになる。
	3	13	So ist das Quantum als Grad gesetzt.	それゆえ、数量は、度数として設定されている。	したがって定量は度として定立される。
	4	14 15 16 17 18 19	Er ist die einfache sich auf sich beziehende Bestimmtheit, welche die Negation ihrer selbst ist, indem sie ihre Bestimmtheit nicht an ihr, sondern in einem andern Quantum hat; er ist also, indem er dieses bestimmte Quantum ist, vielmehr wesentlich nicht er, sondern ein anderes Quantum.	度数は、みずからをみずからに関係づける単純な規定態であるが、こうした規定態が規定態自身の否定である。というのも、こうした規定態は、みずからの規定態を、ほかならぬみずから自身のものには持たず、他の数量のうちを持つからである。したがって、度数は、規定されたこうした度数であることによって、むしろ本質的には度数ではなく、他の数量なのである。	度は単一な・自己へと関係している規定態であり、そしてこの規定態はそれ自身の否定である、というのは内包的な大きさはその規定態をそのもとにはなく、他の定量の内にもっているからである。したがって度は、それが一定の定量であることによって、むしろ本質的にそれではなくて、他の定量である。
498	1	20 21 22	Ein Quantum ist also überhaupt in absoluter Continuität mit seiner Aeusserlichkeit, mit seinem Andersseyn.	したがって、数量は、一般に、みずからの外面態との絶対的な連続態のかたちをとり、みずからの〈他であること〉との絶対的な連続態のかたちをとる。	したがって定量は一般にその外面性との・その他在との絶対的な連続性のうちにある。
	2	22 23 24	Es kann daher nicht nur über jede Größebestimmtheit hinausgegangen, sie kann nicht nur verändert werden, sondern sie muß sich verändern.	このため、数量は、それぞれの〈大きさの規定態〉を超えて行くことがたんに【できる】だけではない。〈大きさの規定態〉は、変化させることがたんに【できる】だけではない。むしろ、〈大きさの規定態〉は、みずから変化せ【ざるをえない】のである。	だからそれはおのおのの大きさの規定態をこえ出ることができるだけではない、また大きさの規定態は変化させられることができるだけではない、それは変化せざるをえないのである。
	3	24 25 26	Die Quanta erschienen zuerst als äusserliche gegeneinander, in der Bestimmung von numerischen Eins.	もろもろの数量は、さしあたり、〈数字で示す〉〈一つ〉の規定のかたちで【たがいにに対して】外面的な数量として現象する。	もろもろの定量はまずはじめに相互に外的なものとして数的一という規定のうちにある。
	4	26 27	Aber sie sind nicht nur äusserlich gegeneinander, sondern sind	しかし、もろもろの数量は、たんにたがいにに対して外面的なのではなく、【みずから自身に対して外	だがそれらはたんに相互に外的であるだけでなく、自己自身にとって外的であ

			28 <i>sich selbst äusserlich.</i>	面的】なのである。	る。
	5		28 Die Größebestimmung conti- 29 nuirt sich also so in ihr Andersseyn, daß sie ihr Seyn 30 nur in dieser Continuität mit einem andern hat.	したがって、〈大きさの規定〉は、連続してみずからが〈他であること〉になるのであり、だから、みずからの存在を〈他の存在〉とのこうした連続態の内にしか持たない。	したがって大きさの規定はそれの他在へと連続しており、それはその存在を他者とのこの連続性の内にのみもっている。
	6		30 Ein 31 Quantum ist also es selbst, und eben so wesentlich nicht 32 es selbst, sondern die Negation seiner, ein Anderes.	したがって、ある数量は、ある数量自身ではあるが、同じくらい本質的に、ある数量自身ではなく、むしろ、その数量の否定であり、〈他のもの〉なのである。	したがって定量はそれ自身であり、また同じく本質的にそれ自身ではなくて、その否定、すなわち他者である。
	7		32 Es 33 ist nicht eine <i>seyende</i> , sondern eine <i>werdende</i> 31 Grenze.	ある数量は、【存在する】限界ではなく、〈【成る】限界である。	定量は在る限界ではなくて、成る限界である。
499	1	181	1 Das Eins ist unendlich, oder die sich auf sich be- 2 ziehende Negation; es ist daher die Repulsion seiner von 3 sich selbst.	〈一つ〉は、無限である。いいかえれば、みずからをみずからに関係づける否定である。だから、〈一つ〉は、みずからが自分自身に反発することである。	一は無限的である、換言すれば自己へと関係する否定である。だから一は自己自身からの自己の反撥である。
	2		3 Das Quantum ist gleichfalls unendlich und 4 repellirt sich von sich selbst.	同様に、その数量も、無限であり、みずからがみずから自身に反発する。	定量は同様に無限的であり、かつ自己自身から自己を反撥する。
	3		4 Aber das Quantum ist das 5 <i>bestimmte</i> Eins, das Eins, welches in Daseyn und 6 in die Grenze übergegangen ist.	しかし、その数量は、【規定された】〈一つ〉である。すなわち、現存在に移行してしまった〈一つ〉であり、それも限界に移行してしまった〈一つ〉である。	だが定量は規定された一・定在と限界へと移行してしまっている一である。
	4		6 Das Quantum ist also 7 die Repulsion der Bestimmtheit von sich selbst; sie ist da- 8 her nicht das Erzeugen des sich selbst gleichen, wie die 9 Repulsion des Eins, sondern seines Andersseyns.	したがって、その数量は、当の規定態がみずから自身に反発することである。だから、この反撥は、〈一つ〉が反発するときのようにみずから自身に同等なものを産出することではなく、みずからの〈他のあり方〉を産出することなのである。	したがって定量は規定態の自己自身からの反撥である。だからこの反撥は、一の反撥〔の場合〕のように、自己自身に等しいものを産出する運動ではなくて、その定量の他在を産出する運動である。
	5		9 Wie 10 über das Eins nicht von einem Dritten hinausgegangen 11 wird, sondern es selbst sich von sich abstößt, so ist es 12 auch der Begriff des Quantums über sich hinaus zu schi- 13 cken, und ein Anderes zu werden.	〈一つ〉は、第三のものによって超えられるのではなく、みずから自身からみずからを突き離すように、みずからを超えて外に出て〈他のもの〉に成ることは、数量の概念でもある。	第三者によって一がこえ出られるようにでなく、定量自身が自己を自己から突きはなすのであり、だから自己をこえて送り出し・他者になるということは数量の概念でもある。
	6		13 Es besteht darin, 14 sich zu vermehren oder zu vermindern; es ist die Aeusser- 15 lichkeit der Bestimmtheit an sich selbst.	みずからを超えて外に出て〈他のもの〉に成ることの實質は、増加するか、減少するかにある。こうした増減は、規定態それ自体それ自身の外面態である。	定量は増大または減小することをその本質としている。定量は規定態それ自体の外面性なのである。
500	1		16 Das Quantum schickt sich selbst über sich hinaus;	数量は、みずからを超えてみずから自身を外へ	定量は自己をこえて自分自身を送り出

		17 18 19 20 21	diß Andre, zu dem es wird, ist zunächst selbst ein Quantum; eine nicht seyende, sondern sich über sich selbst hinausstreibende Grenze; es continuirt sich in sein Andersseyn; es ist sich äusserlich; und diese Aeusserlichkeit seiner selbst ist es selbst.	追い出す。この数量はそうした〈他のもの〉となるが、この〈他のもの〉は、さしあたりそれ自身が一つの数量である。すなわち、存在する限界ではなくて、むしろみずから自身を超えてみずからを外へ追い立てる限界である。数量は、みずからの〈他であること〉へとみずから連続する。数量は、みずからに外面的であり、そして、みずから自身のこうした外面態が数量自身なのである。	す。定量は他者になるのだが、この他者はまずそれ自身が定量である。在る限界ではなく、自己自身をこえて自己を外へと駆りたてる限界である。定量はそれの他在へと連続している、それは自己にとって外的である、かつそれ自身のこの外面的が定量そのものである。
	2	21 22 23 24	Die in diesem Hinausgehen wieder entstandene Grenze ist also schlechthin nur eine solche, die sich wieder aufhebt, und so fort ins Unendliche.	したがって、このように外へ超えることでふたたび発生する限界は、端的に、ふたたび廃棄される限界にすぎない。【そして】、このことは、【無限のかなたまで続く】。	この外へ出る運動の内にふたたび生成した限界は、したがって端的にふたたび揚棄される限界にすぎず、こうして無限に進むのである。